

令和5年度 第1回 東海村スポーツ推進計画推進委員会会議録

1	開催日時	令和5年5月19日(金) 18時30分から20時30分まで
2	場所	東海村歴史と未来の交流館 活動室2
3	出席者 (敬称略)	<委員> 塚原美光, 黒羽根史朗, 吉沼玲子, 小泉親彦, 竹下浩一, 松坂晃, 高橋和将, 橋本礼子, 久保田泰世 <事務局> 河西徹雄(教育部長), 深見孝志(生涯学習課長), 物井聡(生涯学習課課長補佐), 川崎彰利(生涯学習課主任), 佐藤大樹(東海村文化・スポーツ振興財団スポーツ振興係係長), 坪井紗音(東海村文化・スポーツ振興財団スポーツ振興係主事)
4	欠席者 (敬称略)	鈴木範英, 小林伸朗, 石丸美代子, 田畑由紀子, 小川満, 杉山章子
5	公開又は 非公開の別	公開
6	非公開の理由	—
7	協議・説明事項	・住民意見の集約について ・第2期計画の概要について
8	配布資料	資料1-1…第2期スポーツ推進計画策定に係る住民意見の集約方法について(案) 資料1-2…第2期東海村スポーツ推進計画策定に係るアンケート調査票(案) 資料2-1…第2期東海村スポーツ推進計画(骨子案) 資料2-2…第2期東海村スポーツ推進計画策定スケジュール 資料2-3…第2期東海村スポーツ推進計画で「目指す姿(将来ビジョン)」について[ワークシート]
9	発言内容	■議事進行：塚原委員長 (1) 住民意見の集約について ○ 配付資料の説明…資料1-1, 1-2 委員)「業務委託によるアンケート調査」の目的として,「課題

	の把握」も行いたい。 委員) 成年年齢が18歳に引き下げられたこともあり、高校生は自分の意見を持つ年代と言える。高校生の意見も集約し計画策定に反映できるとよい。 委員) 部活動に入らない子が増えていると聞く。今後の児童・生徒の運動・スポーツへの関わり方が継続して調査できるように設問を設計したい。 委員) 前回の調査結果と比較するためには、表現も含めて設問はあまり変えないという方法もある。変える設問と変えない設問のバランスが大切である。 委員) アンケート調査は、自由意見を除き「聞いたこと」しか返ってこない。限られた設問数の中で、第2期計画策定に必要な情報を収集できるような設問設計が必要。 委員) 「量的調査」であるアンケート調査のほか、インタビュー等、個別属性に深掘りできる「質的調査」も意見集約の方法として有効な手段である。 委員) Yes / Noの選択式ならまだしも、子育て世代や働き世代等にとっては、30問という設問数も多いように感じる。アンケート調査のボリュームで回答を諦めてしまうことも懸念される。 委員) 多忙な世代でも回答しやすいように、必須回答の設問と、任意回答の設問を設けてはどうか。 委員) 調査対象年齢の引き下げに賛成する。新型コロナウイルス感染症の5類移行を踏まえ、コロナ禍で運動・スポーツから遠ざかっていた人を誘うための取り組みについて検討できるような情報が収集できるとよい。 委員長) アンケート調査の大前提として「運動・スポーツの定義」を明確にしておく必要がある。本村のスポーツ推進計画における「運動・スポーツ」の定義は、競技スポーツ（狭義のスポーツ）のみではなく、身体活動全般（広義のスポーツ）を指すことを分かりやすく記載したい。 委員) 若者はもちろんだが、高齢者にもeスポーツの普及が進ん
--	--

	でいる。アンケート調査の中で「eスポーツを知っているか、やっているか」という設問を設けてもよい。 委員) 発達障害の方が増えていると聞くと、発達障害の方も含めて運動・スポーツを行う受け皿が必要である。環境を整備し、どこにいけば運動・スポーツができるかという情報を村民に届けていきたい。 委員) 障がい者スポーツの実践者は全体から見れば少数である。設問数も限られるため、アンケート調査の設問としては資料1-2に記載されている2問程度とし、ニーズ調査のような深掘りはアンケート調査とは別枠で考えた方がよいのではないか。 委員) 発達障害の方へのアンケート調査については、「なごみ東海村総合支援センター」に協力してもらえば実施できるのではないか。 委員) 調査対象年齢について、80歳未満に限定しなくてもよいのではないか。80歳以上の高齢者で元気にサッカー等を行っている方もいる。 委員) 元気な80歳がいることは間違いないが、統計分析を行う上でサンプル数等を考慮すると、調査対象年齢の上限については、現行の80歳未満のままでよいのではないか。 委員) 年代ごとの調査対象者数の割合はどのように抽出されるのか。 事務局) 各年代の人口割合に応じて按分して抽出される。 委員長) SCスマイルTOKAIでも障がい者対象のパラスポーツ教室を開催したことはあるが、単発事業しか行えておらず実績は少ない。障がい者団体との協議がなかなか進んでいないという状況である。常陸太田市の鯨ヶ丘商店会では障がいを持つ子や保護者が活動する拠点が整備されている。 委員長) アンケート調査とは別動となるかもしれないが、第2期計画の中に障がい者スポーツの推進に係る項目の記載も検討していきたい。 委員) 東海村で開催されるマルシェ等のイベントで、少ない設問数でもアンケート調査を行ってみてはどうか。イベントの内
--	--

	容に応じて参加者が変わるので、個別属性の意見集約の際に活用できるのではないか。 委員長）設問数，設問内容，調査対象年齢（高校生及び80歳以上の取扱い），実施方法（QRコード，イベントでの実施）及び回収率を上げるための工夫等，今回出された意見を事務局でまとめ，次回の委員会で確認することとしたい。 （２）第2期計画の概要について ○ 配付資料の説明…資料2-1，2-2 事務局案で了承。 ○ 配付資料の説明…資料2-3 委員）中央公民館講座の「自力整体」に申し込んだが，定員を超える申し込みがあったため，抽選で落選して参加できなかった。出鼻を挫かれた思いになったので，改めて「やりたいと思った時にできる」環境整備は大事だと感じた。 委員）歴史と未来の交流館の広場は，緑が豊かで気持ち良く運動・スポーツが行えると思うが，広場で運動・スポーツ関連の団体が利用することはできるのか。 事務局）利用する団体が固定化すると，他の利用者の利用を妨げることに繋がることを御理解いただきたい。 委員）多くのスポーツ団体が村内で活動しており，活動場所の取り合いになる。スポーツ施設の1コマを確保して誰でも自由に活動できる環境（指導者の配置も含む）が整備できると良い。 委員）次に感染症が拡大した時の対応について検討しておき，運動・スポーツ活動が停止しないような準備が必要である。 委員）例えば太鼓のように，これまで「文化」に分類されてきた活動もスポーツの定義次第で運動・スポーツと考えることもできる。文化とスポーツを分類するという固定観念を取り払うことも必要になってきていると感じる。 委員）自分たちの活動を運動・スポーツだと認識することは，運動・スポーツを身近に感じ，継続的に取り組んでいくために
--	--

	重要なことである。 委員)「ホッケーのまちづくり」には継続して取り組んでいきたい。 委員)「eスポーツがスポーツに含まれるのか」については、今後(新型コロナウイルス感染症の5類移行後)見極められていくものと思われる。 事務局) スポーツか否かの判断基準が「身体を動かすことがスポーツ」だとすれば、eスポーツは「スポーツではない」と位置づけられる可能性もあるが、一方で高齢者が手指を使った脳トレや健康づくりの一環としてeスポーツを行う場面を切り取れば、「スポーツ」となる可能性もある。 委員) 大規模スポーツイベントが誘致できると、「スポーツのまちTOKAI」の機運醸成に繋がり、東海村の強みと言えるようになるのではないか。ホッケー競技について言えば、境町はホッケー選手が一人も居ないが、立派なホッケー競技場を所有しているため、アルゼンチン代表を呼んで事業を実施することができる。 委員) 同じく境町では、各競技で活躍する一線級のスポーツ人材を地域おこし協力隊として採用する等の取り組みを行っている聞いた。 委員) スウェーデン発祥で、ジョギングとごみ拾いを掛け合わせたスポーツの「プロギング」を見聞きし、SDGsの観点からも面白い試みだと感じた。分野横断的に様々な課題に取り組む中に「スポーツ」も加わり、相乗効果が図れるとよい。 委員長) 自分が関わる少年団では、村のクリーン作戦を練習の一部に組み込んで継続的に参加している。チームメイトはもちろん、地域の人と一緒に活動することの大切さを伝えている。 委員) スポーツウェアを着て、スポーツ施設で行うスポーツだけではなく、いかに「日常の活動」を運動・スポーツと捉えてもらえるかが課題ではないか。 委員) ビジョンや目標、方針等を掲げる際に理由や根拠を明確にしておくことは、比較や評価を行う上で重要である。「スポーツ
--	--

	が身近なまち」を目指すのであれば、「今はどれだけ身近でないのか」を明確にしておけるとよい。 委員）自分は東海村をはじめ，他市町村でも運動・スポーツ事業に携わっているが，特に大人を対象とした効果的な運動・スポーツの「きっかけづくり」の方策として，ガイダンスを短縮して実践を充実させることで受講者を増やす等，これまでの方法に捉われない新たな手法を研究している。 委員長）次回の委員会では，策定スケジュールのとおり，住民アンケート調査の実施詳細の確認と，第2期計画素案の検討として，基本理念及び基本目標を中心に議論を行っていく。
10 今後の予定	次回委員会は，6月中～下旬に開催予定。